

2024 広島竹原芸術祭「記憶の地層」を開催します

竹原市の町並み保存地区及びその周辺に所在する歴史的建造物を展示会場とするアートイベント「広島竹原芸術祭 記憶の地層」を開催します。

令和6年9月14日（土）から10月6日（日）までの約3週間での会期中、町並み保存地区及びその周辺の5か所の会場でアート作品を展示するほか、会期中には竹原市内の小・中・義務教育学校と連携した関連イベントを開催します。

1 開催概要

(1) 会期

令和6年9月14日（土）から10月6日（日）まで

(2) 会場

- ①竹原市重要文化財 旧森川家住宅
- ②竹原市重要文化財 旧松阪家住宅
- ③竹原市重要文化財 旧吉井家住宅
- ④旧上吉井家住宅（初代竹原郵便局跡）
- ⑤広島県史跡 頼惟清旧宅

(3) 参加アーティスト

安達響、岩崎貴宏、島村凜、竹村京、ちえんしげ、百崎楓丘

(4) キュレーター

荒木夏実（東京藝術大学准教授）

(5) 実施団体

竹原芸術イベント実行委員会

2 関連事業

(1) 竹原市内の小・中・義務教育学校における創作交流授業

(2) 教職員ワークショップ

【記憶の地層について】

江戸時代から続く竹原の町並みには、様々な時代の建物があり、何十年、何百年とこの町を見てきた家々には、そこに暮らした人々の経験が積み重ねられています。それは堆積した記憶となって、今日を生きる私たちに語りかけてきます。

本展に参加するアーティストたちは、家の記憶に向き合いながら、作品を通して様々な記憶を表出させます。来訪される方々は、他者の経験に自身の経験を重ねながら、長い歴史の中に積もった記憶の地層を感じることができるでしょう。

問い合わせ

教育委員会 文化生涯学習課 担当：木村・三輪

T E L 0846-22-2328 F A X 0846-22-8460

竹原市の町並み保存地区及びその周辺に所在する歴史的建造物を展示会場とするアートイベント「広島竹原芸術祭 記憶の地層」を開催します。令和6年9月14日(土)から10月6日(日)までの約3週間の会期中、町並み保存地区及びその周辺の5か所の会場でアート作品を展示するほか、会期中には竹原市内の小・中・義務教育学校と連携した関連イベントを開催します。

広島竹原芸術祭 2024「記憶の地層」

Hiroshima Takehara Art Festival 2024 The Layers of Memories

開催概要

会期

令和6年9月14日(土)-10月6日(日)

会場

- 竹原市重要文化財 旧森川家住宅
- 竹原市重要文化財 旧松阪家住宅
- 竹原市重要文化財 旧吉井家住宅
- 旧上吉井家住宅(初代竹原郵便局跡)
- 広島県史跡 頼惟清旧宅

参加アーティスト

安達響、岩崎貴宏、島村凜、竹村京、ちえんしげ、百崎楓丘

キュレーター

荒木夏実(東京藝術大学准教授)

実施団体

竹原芸術イベント実行委員会

関連事業

竹原市内の小・中・義務教育学校における創作交流授業

教職員ワークショップ

展覧会コンセプト

江戸時代から続く竹原の町並みには、様々な時代の建物があり、何十年、何百年とこの町を見てきた家々には、そこに暮らした人々の経験が積み重ねられています。それは堆積した記憶となって、今日を生きる私たちに語りかけてきます。

本展に参加するアーティストたちは、家の記憶に向き合いながら、作品を通して様々な記憶を表出させます。来訪される方々は、他者の経験に自身の経験を重ねながら、長い歴史の中に積もった記憶の地層を感じることができるとでしょう。



竹原市重要文化財 旧森川家住宅

参加アーティスト

安達響 Hibiki ADACHI

2002年京都府生まれ。広島市立大学芸術学部美術学科彫刻専攻4年生。大理石や木、金属、セラミックなどの多様な素材を用いて自然界の生き物や地球の歴史を思わせる繊細な彫刻を制作する。本展では岩塩を用いた作品を展示し、竹原の塩づくりの歴史との接続を試みる。



《ミギワ》2024

岩崎貴宏 Takahiro IWASAKI

1975年広島県生まれ。広島市立大学芸術学部准教授。歯ブラシやタオル、文庫本の葉などの日用品を用いて繊細な風景を出現させ、普段とは全く異なる視点から世界を捉え直す試みを行う。大量の布を用いて表した大地の地層と地表に立つ鉄塔や鉄橋の対比から、地球の営みと人間の時間との関係性が見えてくる。



《Out of Disorder (Layer and Folding)》2018
『跳躍するつくり手たち:人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー』展示風景
京都市京セラ美術館、2023 撮影:末田猛

島村凜 Rin SHIMAMURA

2002年神奈川県生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科4年生。他者との交流を通して人と生活、歴史との関係をリサーチし、インスタレーションを制作する。本展では曾祖父が愛用していた蓄音機を修理して過去の音を再現しつつ、戦時中の状況を調べた作品や、竹原に住む人々への取材を通して制作した新作を発表する。



《忘れられた音を継ぐ》2023

竹村京 Kei TAKEMURA

1975年東京都生まれ。刺繍を施した布を写真やドローイングに重ねる作品や、壊れた道具を布で包み、光る絹糸で縫う作品を制作する。竹村の行為によって記憶のかけらに光が当てられ、かつて存在したものや風景が浮かび上がってくる。本展では、竹原の古い住宅に住んでいた人たちに思いをはせ、過去と現在をつなぐ作品を発表する。



《修復されたY家の獅子》2024

ちえんしげ CHEN Shige

1993年台湾・台北市生まれ。東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程2年生。絵画やマンガなどの表現を用いて多言語社会やコミュニケーションに関する作品を制作する。本展では下宿先の大家さんが作ってくれた料理を介したコミュニケーションをテーマにした作品シリーズや、植民地教科書中の文字と風景に着目した新作を発表する。



《今日はすき焼き》2022

百崎楓丘 Fuka MOMOZAKI

2002年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科4年生。ジェンダーやさまざまな社会的属性に縛られない身体の可能性について考察しながら写真作品を制作している。本展では竹原の人々を被写体とし、個人の身体のもつ物語や、個人と場所との関係を探る新作を発表する。



《女体彫り盛り》2023